

7 番（小川義昭君）

私どもこの白山市のイメージが、庭園都市であることが余りこの白山市民の皆さん、それから市外の人たちに十分周知されていないような気がいたします。

今後ともどうかさらにアピールに努めていただきたいということで、次の質問に入ります。

次に、平成 23 年 12 月定例会の提案理由説明において、作野市長は今こそ政治家は国家百年の計に立ち、我が国の将来像を示さなければならない、それは市政においても同様であると強調されました。

その発言には私も大いに共感を抱きました。よって、就任 2 年目に入られた作野市長に、白山市の将来像、まちづくり施策を具体的にただしてみました。その際、市長はこのように御答弁されています。

「広大な本市のまちづくりについては、均衡ある発展と良好な市街地の形成、農地の保全、行政の効率化、中心市街地活性化に向けて関係機関と調整している。公共交通ネットワーク整備にあわせ、J R 白山駅及び周辺の開発整備と交流人口の増加も目指し、白山手取川ジオパークを核としてジオサイトを拠点とした観光ルートの確立を図り、白山ろく地域を中心とした観光振興策を図っている。今後は、議員各位と未来のまちづくり像について協議してまいります。」

この答弁をお聞きして、私は今ある行政の課題の羅列であり、いずれも具体性に欠けると感じた次第です。そこには作野市長御自身が考えるメイン施策の主張がなく、個性も乏しい御答弁であったことが残念でなりません。

私は行政の長たる者の務めとして、その自治体に宿る産業、文化、風土の個性を見きわめ、それらを有機的に結びつける日本に一つだけの自治体の青写真、まちの自画像を描き切ることが肝要かと考えます。

その後、約 2 年間が経過しようとしている今、作野市長御自身が目指す白山市のまちづくり構想、将来像は具体性を帯びているのか。あるいはこのまちが進むべき道しるべを胸の内に秘めておられるのか、改めて市長の覚悟を賜り、あわせて今一度、御自身の構想、将来像をお聞かせ願いたいと存じます。